



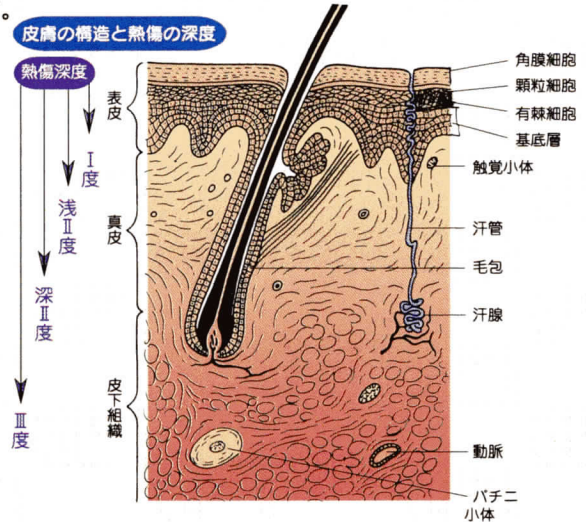
これからの季節、熱いものに接する機会も増えてきます。そして注意したいのがやけどですが、やけどの原因で多いものは台所まわりのもので、熱湯・味噌汁・てんぷら油などの液体や炊飯器ややかん等の蒸気です。台所以外でもストーブなどの暖房機器やアイロンなど。近年では高齢者による仏壇のロウソクの火、台所のガスコンロの火が、衣服に燃え移ることによるやけども増加しています。

万が一に備えて応急手当の方法を紹介します。

★やけど事故予防

やけどの原因の多くは、日常生活の中に潜んでいます。日常生活において注意することにより、多くのやけどは未然に防止することができます。

- 浴槽の湯温の確認を子どもにさせない。
- お酒に酔って入浴しない。長風呂を好むお年寄りには、常に声をかける等の注意をする。
- 熱湯やスープを運ぶときは床の段差に注意する。
- カップラーメン等に熱湯を注ぐときは狭い場所でおこなわず、安全な場所で行う。
- ストーブなどは触れないように柵をする。
- 電気カーペットやカイロ、ファンヒーター等は低温やけどを起こしやすいので、長時間あたらないように配慮する。



★家庭での応急処置の方法

すぐに水道の水を流してやけどをしたところを十分冷やします。

- 衣類の上からやけどした場合などは無理に衣類を脱がさないで、そのままの状態で冷やしてください。
- 水ぶくれができている場合は、潰したり剥がしたりしないように注意をする。
- 熱さや痛みを感じなくなるくらい（最低5分以上）水を流してください。
- 流水で冷やすことで、やけどがそれ以上進むのを止めたり、痛みを和らげたり、細菌の感染を防ぎます。

冷やした後は何も塗らない。

- 感染を防ぐために、できるだけ綺麗なもので（布・ガーゼ）やけどを覆いましょう。
（注1）脱脂綿はくっつくので止めましょう。
（注2）強く巻きすぎると水泡が潰れ、剥がすときに痛いのでそっと軽く巻きましょう。
- 水泡は潰すと、そこからバイ菌が入りやすくなってしまうので潰さないように気をつけましょう。
- 民間療法では、やけどに効果があるとされるアロエ、野菜、味噌などを、直接患部に貼ったり、塗ったりしますが、清潔保持の面からは好ましいことではありません。患部から侵入した細菌によって生じる傷の感染は、やけどを悪化させる原因になり、もし万が一、破傷風菌（はしょうふうきん）が侵入すると致命的になるので注意が必要です。消毒薬でも、患部に色が付いてしまうようなものを使うと患部の状態がわかりにくくなり、診断の妨げとなってしまう可能性があります。

★熱傷(やけど)の症状は?



1度熱傷

もっとも軽いタイプのやけどです。



2度熱傷

表皮の下の真皮に達するやけどです。



3度熱傷

表皮、真皮全層が壊死に陥った損傷

★こんな時は病院へ、救急車を呼んでください

- ショック状態の時
- 顔面が蒼白し、唇が青いとき
- ぐったりして元気がない
- 呼吸が苦しそうなとき
- 全身にやけどを負ったとき

★早めの受診・相談を

- やけどの範囲が広い
- 小さくても皮膚が剥がれたり、焼けただれた痕がある
- 顔や粘膜（鼻や口）にやけどを負ったとき
- 陰部のやけど
- 低温やけどをしたとき